

「ほっかいどう学」地方創生塾（伊達市大滝区） 2年目 第4回

日時 令和2年 11月 30日（月）18時 30分～20時 30分

会場 Web 会議システム（Zoom）による開催

参加者 8名

内容 テーマ 「私達が考える災害が起きた時の大滝住民の動きの構想について」

第4回ほっかいどう学地方創生塾（伊達市大滝区）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインによる開催となりました。

まず、たきしんくらぶが2018年7月から2020年12月までに発行した新聞の中から、防災に関する記事をもとにこれまでの活動を振り返りました。

その後、2年間の創生塾の取組を「私達が考える災害が起きた時の大滝住民の動きについて」にまとめるため、草野塾長から提案で過去の噴火時の被害状況を改めて調べました。その結果、塾生から実際の被害やボランティアの人数等、数値化したデータの紹介があり、再度被害状況をイメージすることができました。その後も、大滝の資源として「大滝セミナーハウス」の活用の可能性やNPOとは何かということについて意見交流され、自分達ができることへの認識を深めることができました。また、災害のフェーズによる対応内容の違いや連絡手段の確保としてのコミュニケーションツールの重要性、大滝地区の中継ポイントとしての役割など、東日本大震災時の事例をもとに塾長から紹介がありました。

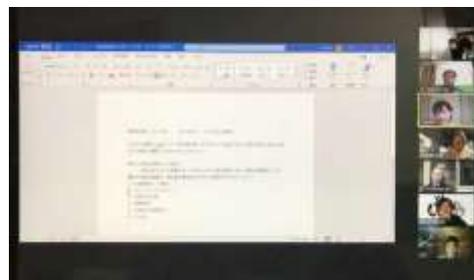
今回は、2年間の活動をまとめた「私達が考える災害が起きた時の大滝住民の動きについて」について最終確認する予定です。

成果と課題

「たきしんくらぶ」というフリーペーパー発行など地域で活動している団体が、防災について学び、災害時には支援活動もするということは他の地域でもあるようで、改めてこれまでの活動が人とのつながりを広げながら災害に備える活動になっていることに気がきました。草野塾長から、大滝という立地条件と環境が持つ可能性を成果物の中に盛り込むことや似ている事例（岩手県遠野市など）を調査していくことが、今後の取組になることを助言していただいたので、次回1月の第5回の会議までに防災構想をまとめていきたいと思えます。



【オンライン会議に参加した8名】



【報告を聞いたたきしんくらぶのメンバー】